招集期日　平成２４年３月１６日（金曜日）

招集場所　入間市庁舎５階第１委員会室

開　　会　３月１６日（金曜日）午後　１時３０分

閉　　会　３月１６日（金曜日）午後　１時５８分

出席委員　委員長　金子俊雄　　副委員長　小島清人
　　委　員　石田芳夫　　委　員　安道佳子
　　委　員　山本秀和　　委　員　向口文恵
　　委　員　堤　利夫　　委　員　齋藤國男

欠席委員　委　員　駒井　勲

説明のため出席した職員　　企画部長　　企画部次長
　　企画課長　　関係職員

委員会に出席した事務局職員　　玉井栄治　　沼井俊明

△　開会及び開議の宣告（午後　１時３０分）

委員長　　ただいまの出席委員は８名であります。定足数に達しておりますので、これより基地対策特別委員会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

欠席の届け出は駒井委員であります。

△　議事

委員長　　これより議事に入ります。

それでは、お手元にご配付いたしました次第によりまして議事を進めさせていただきます。

１、次期輸送機ＸＣ－２の視察に伴う意見交換についてを議題といたします。この件につきましては、２月14日に航空自衛隊入間基地より空路にて航空自衛隊岐阜基地に向かい、午前中に岐阜基地の概況説明を受けた後、各基地施設の視察を行いました。午後からは、次期輸送機ＸＣ－２機の機体やコックピットの視察を行いました。天候がよければ、ＸＣ－２機の試験飛行の離発着を視察する予定でしたが、残念ながら雨天のため実飛行は中止になりました。ＸＣ－２機は現在運航しているＣ－１機の約1.5倍の大きさで、燃費の向上や低騒音を実現している最新技術の国産機ということでした。

また、ＸＣ－２機の受注契約者である川崎重工業（株）の視察を行い、機体の製造過程や点検、補修等の状況を視察しました。以上、当日の概要ですが、視察を行った感想やご意見を伺いたいと思います。

ここに今読み上げましたのですが、前回２月14日に入間基地から岐阜の基地へ、あれはＹＳ－11ですかね、の飛行機でそちらに行きまして、基地を視察させていただいたということなのですが、当初雨が降っていまして飛べなかったわけですが、飛んだときの状況等々をそのときに係の人にお聞きしましたところ、Ｃ－１の騒音の半分ぐらいのは何とかという騒音言っていましたね。事務局でその辺わかります、騒音の関係を、実際には見なかったのですが、玉井さん。

議会事務局主幹　はっきりした数値はちょっと記憶にないのですけれども、技術の進歩によってかなり騒音は抑えることができたというような説明を受けたかと思います。

委員長　　以上、騒音の関係をかなり気にしていったのですが、実施の飛行は見学できなかったわけですが、係の人は騒音はかなり小さくなってきまして、視察をされる団体の方もある程度、こんなに小さいのかというような状況を言っていましたという話は聞きました。

そんな感じもいろいろ含めまして意見交換をこの件でお願いしたいと思いますが、よろしくお願いします。何か行った方でありますか。なかなか難しいけれどもね。

向口委員。

向口委員　感想ということなので、率直な感想なのですけれども、この新しい輸送機が実際には入間基地に対してはどうなのかというところで、いつごろ導入されて、どの程度の台数が離発着されるようになるのか、具体的なところが知りたいなというのが本音なのですけれども、大分相当な先になるのでしょうけれども、実際に知りたいなと思うところがやっぱりありました。今でき上がったばかりなようでしたので、本当に大分かかるのかなと思うのですけれども、その辺わかるのでしたら知りたいところです。

委員長　　何かそちらの事務局ではその関係の何かありますか。

企画課長　この導入の計画、いつごろ配備で何機というような説明はまだ自衛隊のほうからも受けておりませんので、今実際この間も視察に行ったときもまだ試験中ということでございますので、まだ数年はかかるというような印象を持ちました。

委員長　　今、この間川崎重工業の会社も視察させていただいたのですが、そこに入っているものと１機滑走路にあるやつということでよかったっけ、あれは。

企画課長　現在、この間の説明では４機ありまして、２機が飛行テスト中、それともう二機が耐力試験というのですかね、強度の試験をやっているということで、今４機あると。すべてテスト中というふうに伺いました。

委員長　　向口さん、何かありますか、それに対して。

向口委員　本当にまだ試験中という、本当にもう始まったばかりのところで先のことを言うのはなんなのですけれども、実際に早く導入されるにこしたことはないと思うのですね。やっぱり大きくて、しかも音が低いわけですから、少ないわけですから、ですから今４機あるとおっしゃったのですけれども、とりあえずはその４機が稼働するとして、今後はどんどんもっと国内でふえていくのかどうなのか、その辺というのはどうなのでしょうかね。

委員長　　その辺はどうですか。

企画課長　恐らく今私４機と言いましたけれども、飛べるのが２機で、２機は飛べないものだと、機体の耐力を見ているというような説明だったかと思います。今後についてはその試験を行っていって、その今Ｃ―１の後継機ということで、恐らくですが、量産に、オーケーとなれば量産をされていくのかなというふうに思います。

委員長　　そうしますと、あれですか、入間基地に配置されるのはそれこそ何年になるかわからないというような確定はできないわけだよね。どうなのですか、それは。

企画課長　先ほども申し上げましたけれども、その辺の情報の説明を受けてございませんので、今のところわかりません。

委員長　　そういうわけだそうです。

　　いいですか、ほかにありますか。

石田委員　今の関係は、向こうから説明を受けるのではなくて、こちらから聞いた結果、出てこない

のですか、それとも当然新しい機種に入れかえるのはいつからいつまで試験飛行して、いつごろでき上がって、その後何機ぐらいつくる予定だというのは全部計画あるはずですよね。その中で入間基地に何機配備されるのか、問い合わせしないと多分何も答えてくれないのではないかと思うのですよね、余分なこと。

企画課長　私、担当レベルでその辺の問い合わせをしてございますけれども、教えていただけない状況でございます。

委員長　　石田委員。

石田委員　これは１機幾らぐらいするのですか。今のがＣ－１というのが幾らぐらいして、今度のこれはどのぐらいかかるのですか。

企画課長　Ｃ－２に関しましてこの間現地でその説明会で聞いてみたのですが、まだ試験中ということで、最終的な部品とか装備というのが、恐らくまだ固まってはいないと思いますが、おおよそ当初よりも金額が上がってきて、100億円前後かなというようなお話を聞きました。

　Ｃ－１につきましては、もう40年たっているというようなところで、ちょっと今その問い合わせはしてございませんけれども、現状の価格というのはちょっと難しいのかもしれないですね。またその辺は問い合わせてみたいと思いますけれども。

委員長　　ほかにございますか。

齋藤委員　いずれにしても、いつ飛ぶのかわからないのですけれども、飛べばうちの真上飛びますから、騒音や何かもわかると思うのですけれども、現状では何かこの前の話ですと、このＣ－１よりかは音が静かになると言っていましたね。ただ、この大きさからいくと、べらぼうに大きいのですよね。実際本当に飛んでみて、飛んだのを見なければわからないです。そんな意見持っています。

委員長　　たまたま雨が降っていなければ、雨が降って飛べないというのはどういうことなのだか私もわかりませんけれども、騒音は確かに少ないと、Ｃ－１から比べましたら。はるかにおとなしい騒音になっているということを言っていました。２機一緒に滑走路には並んでいましたけれども、かなり大きさが違うなという感じがありましたね。

　輸送機というのは、余談ですけれども、言っていいか悪いかわかりませんけれども、川崎重工業（株）が基地のすぐわきにありまして、そこから出してきて滑走路に入れるような場所でつくっているわけでして、その川崎重工業（株）の工場内を視察させていただいたのですが、割合と、言葉は悪いですけれども、簡単な感じがする飛行機だなと。輸送機というのはこういうものかなというふうな、私なりには実感がしたということなのですが、もっと輸送機というのはかなり堅固にできていまして、するものかなと思っていたら、そうではなく、内装まで見せていただいたら、もう内装にシートみたいなのが張ってありまして、機体の中に。そこへ大型トラックが入れるというような感じで、これがおりるのだななんていうのを

やっていましたけれども、割合と簡単なものなのですよね。あれでそんなに時間がかかるのかなという、ある意味ですから試験飛行をかなり一生懸命して、つくるのは簡単にできてしまうのかなという感じは、自分なりにはしたような気がするのですけれども、その辺は皆さんの中で感じた人いますか。

齋藤委員　今の委員長の話と違うのですけれども、いいですか、それでも。

委員長　　構わないですよ。

齋藤委員　ちょっと疑問に思っていることがあるのですが、この輸送機というのは、エンジンだけはボーイング社のを使っていて、この胴体ですか、これは三菱重工、それから富士重工、それから川崎重工とこの３つで分担してやっていると言っていたのですね。この輸送機というのは、これは軍事用にはならない、言ってみれば民間輸送機ともその辺の判断というのはどうお感じですか。

委員長　　お願いします。

企画課副主幹　国策で国内の航空機技術力をつけるために国のほうは１社発注ではなくて、４社発注にしたということです。航空機技術、そこを国として将来に民間用に転用するのかどうかというのが国が考えるところだと思うのですが、とりあえず国内飛行機をつくるのに技術をそれぞれ会社を維持させなければいけないというふうに聞いておりますので、分離発注というふうに説明があったかと思いますが、以上です。

齋藤委員　そうしますと、たまたまこれは、たまたまと言ったら変な言い方なのですけれども、自衛隊の基地が隣にあったものだから、自衛隊、もちろん海外でも例えばこれが物すごくいいものだったら、海外から注文が来る可能性ありますよね。その辺いかがですか。そんなことまでは。

企画課副主幹　やはり防衛の問題でありますので、その技術というのを海外に売れるかどうかというのは、どう判断されるかというところだと思いますが、やはり開発費からその運用まで民間機に転用できるのか、輸送機でずっと自衛隊のほうで使うのかというのは国が考えることだと思いますが、ちょっとその辺ははかり知れないところです。

齋藤委員　ということは、これが輸送機そのものが例えば爆撃機と違うわけなので、こういうのってたまたま自衛隊のところで買うからということなのでしょうけれども、軍用というふうになってしまう、そんなことわかりますかね。どうなのでしょう、そういうことは。

企画課副主幹　やはり国のほうがその技術を民間転用するのかどうかというところにかかっていると思うので、恐らくここは国の方針であるかなと思うのですが、とりあえず民間、ＹＳ―11、Ｃ―１以来、日本の飛行技術というのはとまっていて、ホンダがホンダ１社でアメリカでつくった小型機はあるのですが、大型機の技術というのは相当おくれているというのは聞いているというところでございますが、そのあたりの技術を民間転用するかというのは、ちょっ

と何となく私どもではわからないものでありますので、申しわけない……。

委員長　　いいですか、齋藤委員。

齋藤委員　はい、わかりました。

小島委員　これ多分技術研究本部が発注しているということは、自衛隊の中の一つの組織からいっていると思うので、多分これは軍事用の飛行機という見方をされていると思うのだけれども、この技術研究本部というのは自衛隊の所属の中にあるものなのか、民間なのか、その辺ちょっとわかります。

企画課長　自衛隊の内部の組織ということでございます。

小島委員　ということは、もう完全にこれは内部の組織ということは技術本部の発注ということは、防衛省の発注とイコールと考えてもいいと思うので、そうしますとこれは完全な軍用機という感覚をとっていいということですよね。

企画課長　その発注元とかというルートで考えていきますと、そういう考え方が成り立つのかなというふうに思います。

委員長　　わかりました。

小島委員　もしその辺確認がとれたら、そこだけでもちょっと。多分僕もそう、これどうも本部ということは、技術研究所の本部ということは自衛隊の組織の一つですから、イコールだと思うのですけれども、ちょっと調べていただきたいと思います。お願いします。

石田委員　これもらったのですけれども、中でＸＣとＣ－１との比較が中の表に出ているのですよね。基本離陸重量というのは、これ荷物を積んで飛び上がれる重量ということなのですか。

企画課長　これが自重と荷物を含めてマックスというふうに理解しております。

石田委員　一般的には、Ｃ－１よりも約３倍の重量になるわけですね、荷物も含めて。そうなると、それだけ大きなエンジンが必要になってくるということになるわけですよね。必ずしも空でもって試作品、空でもってエンジンのテストをやっているときの騒音と、これ荷物を３倍も積んで、重量にしてみれば３倍にもなるわけですね。それが飛ぶときの音って当然違ってくるのではないかと思うのですよね。何を比較して、今度の場合にはこのＸＣというのが騒音が軽くなるというかな、緩和されるというふうに考えられるのですか。

企画課長　１つは、実際聞いていないということがあるわけなのですが、音を聞いていないと、今回視察で聞いていないというところで何とも言えないのですけれども、１つはこの川崎重工（株）の技術員のお話であると。そこに関して、その荷物の重量がどのくらいで、どういう音だというようなお話は聞いてございませんので、もしかしたらこれが騒音に関して美保基地で１度、違いますね、境港市の議員さんが１回視察に行かれたときに音が聞けたというのがありまして、そのときの印象がＣ－１よりも少なかったという情報もあるのですが、そのときにどういうような条件で飛んでいるのかということはちょっとわかっておりませんの

で、現状でいいますとその空で飛んで静かなのか、どのくらい積んでというところはつかんでいない状況でございます。

石田委員　それこそ齋藤さんの上を飛ぶときに、エンジンテストの場合だと、全然負荷がかかっていないから、単なるエンジンの大きさでいえばそれは新しい機械だから、当然音は小さくなると思うのですよ。ただ、荷物を今度３倍も積めるというから、全体として38.7が今度120になるでしょう、大きさが。だから、それだけ大きな音で実際に聞いてみないと、簡単にその新しい飛行機になったらそれは同じ大きさでやって、同じ重量だったら、それは軽くなるのかもしれないけれども、騒音がね。だけれども、実際に３倍も今度積めるようになって大きくなったものが、小さい音になるというのは正直考えられないのですよね。だから、その辺はよく調査してもらって、条件を確認しないと、恐らく簡単に市民に今度軽くなります、音が小さくなりますからと言ったけれども、実際に飛んだらとんでもない音がしたということになりかねないと思うのですよね。だから、その辺はよく調べてもらってお願いしたいのですけれどもね、調べて。

企画課長　騒音のこと、安全性につきましても、今後やはり十分な説明をしていただきたいなと、もちろん自衛隊にですね、していただきたいなというふうに考えております。

委員長　よろしいですか。

〔(はい）と言う人あり〕

委員長　ほかにありますか。

実際にこれだけの量を載せた音を聞かせてくれということでよろしいですか。

その今飛んでいるやつは載っていないのだよね。荷物は載っていないでしょう、今試験飛行をやっているやつは。

企画課長　空だと思います。

委員長　空ね。なるほど。

トラック等々想定すると、石田さんの言っていることもわからないわけではなさそうだね。

ほかにございますか。この件ではいいのかな、ないのであれば、この件に対しては、まだ試験飛行の段階ということなので、いつ入ってくるかわかりませんが、今のような石田委員のほうからの質問がありました重量を載せた感じの飛行をどの程度できるのだか、あるいはどの程度なのか、その辺を調べていただきますかね。よろしいですか、それは。

〔(はい）と言う人あり〕

委員長　いつごろそういうものもやるのだか、やらないのだか、岐阜の基地で相当飛ぶのでしょう。岐阜の基地でやっているのでしょう。

企画課長　その辺の状況も確認しながら、調査をしていきたいと思います。

委員長　はい、お願いします。それでよろしいでしょうか。

〔(はい）と言う人あり〕

委員長　ないようでしたら、この関係はここで意見交換は終了させていただきたいと思います。

その他、何かありますか。

〔発言する人なし〕

委員長　それでは、次回の委員会ですが、調査研究課題となっています東日本大震災にかかわる入間基地の役割についてを調査研究していきたいと思います。日程については、入間基地と調整をして進めていきたいと思いますので、決まり次第連絡いたします。

また、横田基地の様態変更と周辺自治体への視察については、横田基地との調整に時間がかかるということですので、しばらくお時間をいただき、進めていきたいと思います。

また、当委員会のテーマであります入間市駅側留保地と東町側留保地、騒音問題についても継続して研究をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

そんなことでよろしいですかね。どうでしょうか。この件でありますか。

〔発言する人なし〕

委員長　なければ、こんな方向で進めさせていただきます。

△　閉会の宣告（午後　１時５８分）

委員長　それでは、これで基地対策特別委員会を閉会いたしたいと思います。

大変本日はご苦労さまでした。

△　署名

以上審査の次第は、正確なることを証するため、ここに署名する。

基地対策特別委員会委員長　金　子　俊　雄